令和6年度　東京都立千歳丘高等学校　学校経営報告

1　今年度の取組目標と方策

（1）教育活動の目標と方策

	取　組	成果と課題
学校経営、組織体制	ア　分掌・教科の方針を共通理解し、マネジメントサイクル（PDCA）を活用し、課題発見・課題解決に向けた効果的な学校運営を行う。 イ　企画調整会議を戦略的学校運営の議論の場とし、その決定事項の円滑な周知と、分掌及び学年の連携・協働を推進する。 ウ　校内研修やOJTにより、常にアップデートし、指導力や専門性の向上を図る。 エ　オリンピック・パラリンピック教育（学校 2020 レガシー）実施方針に基づき、国際交流を推進する。 オ　予算編成、施設・設備の適切な管理、募集・広報活動等を通して、経営企画室の経営参画を一層推進する。 カ　会議運営の工夫、ネットワークフォルダを活用した文書や教材等の共有化によるペーパーレス化及び計画的な職務の推進等のDX化を図り、業務の効率化を徹底し、教職員のライフ・ワーク・バランスを推進する。 キ　学校閉庁日を設定している趣旨を踏まえ、必要な業務や指導を計画的に遂行する。また平日の1日当たりの在校時間を 10 時間以内、週休日である土曜日、日曜日の連続勤務について、改善を図る。 ク「生成AI研究校」の指定を受け、授業や教職員の校務についての効果的な利用について検証し、校務のDX化を図る。	ア　分掌、教科間での共通理を図り、業務遂行ができた。課題解決や見直し、新方策に繋がった業務は一部である。 イ　関係分掌間での打ち合わせ、見通しを立ててから企画調整会議で協議する事案が増えた。見切り発車した事案は共通理解が図れなかった。 ウ　校内研修の年間計画の提示は遅れたが、事前に日時とテーマを周知することで参加率が高く、資質向上に繋がった。 エ　オンライン、対面（台湾修学旅行、本校来校）で姉妹校交流、中国語講座により、言語や文化において国際感覚を養った。 オ　各行事、施設の不備等経営企画室の協力により、予算面で円滑に進めたることができた。 カ　teams 掲示板を活用した連絡、会議におけるペーパーレス化が浸透し、業務の効率化につながった。 キ　在校時間が長時間に渡る教員18名、週休日の部活動指導により、全員の連続勤務が解消できなかった。 ク　授業における生成 AI の活用は一部の教員にとどまったが、校務支援についての利用者は半数以上であった。

学習指導	ア　教科主任を中心とした教科会を活性化し、組織的・計画的な授業力の向上を推進する。グランドデザインに基づき、すべての生徒に身に付けさせるミニマムな学力を明確にし、確実な定着を図る。 イ　きめ細かな学習ガイダンスを行い、生徒の学習意欲を喚起させ、本校の学力スタンダードに基づく、教科指導の検証・充実、教員相互の授業研究、生徒による授業評価を活かした授業改善、対話型授業の実践、言語活動・探究活動の充実、様々な発表の場の設定、ICT機器の活用など、学力向上の視点と授業力に裏付けされた質の高い授業展開を図る。 ウ 「学力向上研究校」の指定により、外部人材を活用した学習指導、自習室運営を実施し、基礎学力の定着と学習習慣の確立を図る。また、上昇志向のある生徒の発展的学習への意欲を醸成する。 エ　教科横断型授業を推進することにより、生徒が学習内容をより深く理解することを推進し、生徒の学習への興味を喚起することを促す。 オ　成績改善対策の補習を全講座で教科担当と担任が連携して組織的に実施し、家庭と連携して年度末まで成績不良者への支援を根気強く実施する。 カ　TOKYOスマート・スクール・プロジェクトに基づき、1人1台端末の利活用を推進し、一人一台端末の利活用しながら「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、デジタルリテラシーを備えた人材育成に取り組む。	ア　定期的に教科会を開催し、教科主任会議は年間8回開催した。観点別評価については、教員研修を実施し再確認をし、本校の規定を整備した。 イ　定期考査前に、学年と教科が連携して、国語、数学、英語を中心に学力を定着させるべく朝学習、放課後補習や自習教室開放により、学力の底上げを図った。長期休業日の講習は、30講座を実施した。教員の力がより発揮された。 ウ　数学と英語で、校内寺子屋を数学58回、英語30回実施した。数学は、学力向上に結び付かない生徒もいたが、学習習慣の定着となった。英語は工夫が必要であるが、学力向上に結び付いた。 補講に参加した生徒からは前向きな感想が寄せられた。 エ　教科横断型の授業に賛同する教員はいるが、準備や打ち合わせが必要となるためか一部の教員に留まった。 オ　考査前に、放課後自習室を用意し、教科担当者が質問に応えられるようにするなど、生徒の学習環境を整備した。成績不振者には、三者面談を実施し、今後の取組について、家庭と情報教諭し、生徒支援に結び付けた。 カ　一人一台端末を活用した授業を推進したが、利活用できた教員は、半数に留まった。次年度は、先駆者による授業研究等を実施し、すべての教員が利活用できるようにすることが課題である。

生活指導	ア　生活指導規定に基づき、挨拶の励行、身だしなみ規定の遵守、授業規律を全教職員が徹底する。また、教室環境の整備と安全点検を適切に行い、学習環境の維持・向上に努める。 イ　交通事故防止、犯罪被害防止、問題行動未然防止の指導を計画的に行い、セーフティ教室、SNS活用講習会、薬物乱用防止教室等を通して、生徒の健全育成を図るとともに、学校事故防止に努め、生徒の安全と健全な人格形成を育む。 ウ　ホームルーム活動や各種行事を通して、人間関係能力、判断力、コミュニケーション能力の向上を図り、振り返させて成長を実感させる。 エ　体罰の根絶及びいじめの防止、早期発見・対応のため、教職員の意識向上を図り組織的に対応する。	ア　毎朝の校門指導により、登校時挨拶、服装指導、自転車のマナー、乗車時のヘルメット着用について指導をした。化粧、装飾品については、学年の指導と併用して、粘り強く継続していく。授業規律は概ね良好。 イ　　セーフティ教室は成城警察の協力により実施し、生徒の意識啓発に繋がった。自分事として行動できるようにしていくことが課題である。 生徒の自己肯定感を育めるよう成功体験を積ませていく。 ウ　１学年はオリエンテーション期間中のグループエンカウンターは効果的であった。学校行事において、熱心に取り組み、協力的であった。 エ　いじめガイドラインの改正について教員に再度周知した。生徒に寄り添う指導をしていく。
進路指導	ア　生徒の進路実現を確実なものとするため、「総合的な探究の時間」「LHR」「学校行事」等の中で、計画的・系統的なキャリア教育を推進し、ポートフォリオを活用し、生徒の自己理解を深めるとともに、社会で必要な言語能力と発信力の向上を図る。 イ　推薦入試、総合型選抜、一般入試、大学入学共通テスト、国公立等の多様な進路希望に対応できるよう補習・講習、講演会、面接指導、論文指導等について、各分掌、教科が連携して組織的、計画的な指導の充実を図る。 ウ　進路希望状況を早期に把握し、未決定者に対する指導を充実させる。また進路指導室からの情報発信力の向上、相談体制を充実させる。 エ　実用的な資格取得を担当する教科が、組織的展開し、生徒の資質・能力を向上させる。	ア　総合的な探究の時間にキャリア教育を入れ、3 年間を見通した計画的な指導計画を作成することができた。次年度から運営し、生徒の進路意識を高め、進路実現に向けて発進していく。 模擬試験を受験する生徒が少ない。 イ大学等推薦選抜、総合型選抜による大学進学希望者109名（昨年度97名）を対象に全教員体制で小論文指導を実施した。 ウ卒業時点での進路決定率は100％（昨年94％）を実現できた。次年度も、生徒の希望進路の実現と進路決定率の向上を図る。 国立大学への受験に挑戦した生徒1名。浪人して国立大学に合格した生徒 1 名。 1年から、ガイダンス機能を充実させ、卒業後の進路を意識させている。進路の方向性が決まらない生徒には様々な角度からアプローチをしていくことが必要である。 エ　昨年に引き続き、漢字検定は学年で実施し、挑戦させた。英語検定は準会場として実施したが、受験者増に結び付いていない。漢字検定、英語検定ともに、教科で合格に向けた指導をしている

特別活動	ア　学校行事の意義付けの明確化と質的向上を図り、生徒の自主性と創造性を育成し、協調性や達成感をもたせるとともに、自尊意識を高める。 イ　部活動の参加率、活動内容の向上に努め、生徒の自主・自律の精神及びスモールステップでやり抜く力を育成する。活動については、部活動ガイドラインを遵守し、バランスの取れた生活と、生徒の成長の視点から、休養日を週2回以上設定するとともに、諸活動を通じて望ましい人間生活の伸長を目指す。 ウ　台湾修学旅行の実施、海外学校間交流推進校の指定等、国際交流や語学力向上の取組等を通して、グローバル人材の育成を図る。 エ　図書館を活用した調べ学習や本校生徒のための読書案内の作成等を通して読書活動を推進し、ビブリオバトルに参加させる。 オ　ボランティア活動（奉仕体験活動）、地域等の外部活動に積極的に参加する。	ア　体育祭・文化祭を全校一斉に実施できた2年目で、活性を取り戻してきた。体育祭委員や文化祭委員が主体的に運営にかかわった。生徒は中夜祭におけるパフォーマンスで達成感をもてた。 イ　部活動加入率が61％（昨年 50％）となり、生徒の帰属意識が高まった。大会に向けて練習に励み、成果を出した部活動が少なくない。部活動の魅力を発信し、入部の動機づけをしていく。 　都大会等で優秀な成績を残す部活動が複数あり、帰属意識が高まっている。 ウ　姉妹校交流は、オンライン交流、修学旅行での訪問、来日した際の交流等、国際交流委員の生徒を中心に、充実させることができた。中国語講座に参加した生徒は、挨拶等を身に付けることができた。 エ　図書館利用5805名（昨年 5,563 名　授業利用81時間（昨年 30 時間）、貸出図書 1312 冊（昨年 958 冊）と大幅に増加した。各学年の優秀者は全校集会で発表した。 オ合唱部、吹奏楽部が地域行事に参加した。 ・近隣小学校からのPR動画の依頼に応えた。 ・野球部が未就学児、近隣小学生への野球教室を開催し、講評であった。
安全・健康指導	ア　セーフティ教室や避難訓練等を通じて、健全育成と実践的な防災意識の涵養を図るとともに、学校事故防止及び危機管理に努める。 イ　カウンセリングマインドに基づく保健相談機能の充実を図る。また、始業式等の講話や外部講師による講演会を活用し、生徒に自他の生命を尊重する意識を高めさせる。 ウ　発達障害等特別な支援が必要な生徒に対する組織的・計画的な対応を推進し、ユニバーサルデザインの考え方に基づき、発問、指示が活動の見通しをもちやすいように工夫する。 エ　生徒の発達段階に応じて体力と運動能力を向上させるため、運動の重要性の理解と心身共に健康な人間の育成を目指す。 オ　自転車の安全な利用に係る取り組みを充実させ、自転車通学者のヘルメット着用を徹底し、着用率を90％以上とする。	ア　交通安全教室、闇バイト、SNSについての講演会を実施した。 イ　保健室の1年間の来室人数 3,000 名（昨年 2,001 名）と増加した。情報を共有し、精神的なケアを心がける必要がある。 ・学期ごとの面談週間、拡大学年会で、生徒状況の共有を図った。 2 学年で、がん講話の実施。 ウ　特別支援教育に関する研修年2回　教育相談委員会10回 エ　学年行事で球技大会等を計画し、スポーツを通じた交流の機会を設定した。生涯にわたってスポーツを楽しめるようにしていく。 オ　ヘルメットについては、ほぼ全員が所持して登校するが、着用率は60％である。

募集、広報活動	・ア　学校説明会、授業公開、部活動体験、中学校訪問、出張授業等を計画的、積極的に実施し、中学生やその保護者に対して、認知度を上げ、本校の魅力の理解を図る。 イ　ホームページの更新を組織的に実施し、情報発信体制の充実を図る。 ウ　本校の紹介動画を組織的に作成し、You Tube で公開し、中学生やその保護者に対して、本校の理解の深化を図り、情報の発信方法を拡大する。 エ　地域行事への参加、地域と連携した防災訓練、地域清掃等、地域活動を通して地域貢献する。また、都立学校開放事業として、公開講座の開催及びグラウンド、テニスコートの施設開放を実施し、地域に開かれた学校を目指す。	ア　世田谷区内の中学校の出張授業を実施し、中学生から大変好評であった。 イ　授業、行事、部活動の様子、大会記録等、ホームページは、71 回（昨年 130 回）更新することができた。・学校見学会、部活動体験会、学校説明会を 11 回実施し、参加者総数は、約 1,200 名（昨年 1,500 名）であった。次年度に向けて、さらに広報活動を工夫する。 ウ　学校案内、本校紹介動画はキャッチフレーズ、マスコットキャラクターなど取り入れ、リニューアルした。 エ　地域防災、センター特別指定校により、防災教育を充実させた。 公開講座は、応募者多数で抽選となり、８日開講し参加者37名からは好評であった。施設開放では、グラウンド５日、テニスコート６日開放し、400名の参加があった。次年度も継続していく。

（2）重点目標及び数値目標

	目　標	結　果
制営、組織体①学校経	・学校生活の充実度に対する生徒の肯定的な回答を 75%以上にする。 （R5:82％　R4:83% R3:67%）	・学校生活の充実度に対する生徒の肯定的な回答は87％(86％）で、前年度より微減であったが概ね達成できた。
②学習指導	・学力向上推進計画を具体化するとともに、学ぶ意欲を引き出しつつ基礎学力の定着と応用力の育成を図る。 ・授業改善に対する肯定的な生徒の回答を 70%以上にする。（R5:49% R4:57％　R3:65%）	・基礎学力の定着と応用力の育成に取組んだ。生徒の授業満足度は78％であり、授業への取組状況は86％と意欲的に学ぶ生徒が増えている。 ・授業改善の肯定的な回答は 58％（昨年 49%）と上昇した。各教科の授業評価アンケートから、生徒の取組と教員の工夫への感じ方に乖離があるため、生徒の状況に応じた大幅な授業改善が必要である。
③進路指導	・進路指導部と各学年及び教科が一体となってキャリア教育を推進し、進路実現に向けて取り組む。 ・進路指導に対する肯定的な生徒の回答を 70%以上にする。 （R5:75% R4:76.7％　R3:63.2） ・大学および短期大学への進学率を 45%以上にする。（R5:48% R4:47％　R3:45.3％）	・進路指導に対する肯定的な生徒の回答は、84％（昨年 75％）であり、 ・大学・短期大学への進学率は 48.7％（昨年度 48%）。生徒の進路希望に寄り添った支援を着実に行うことが大切である。進路決定率は100％(昨年度94％であった。
④生活指導	・遅刻、身だしなみ、頭髪、服装等の指導を継続して行い、規律ある学校生活を送らせる。 ・特別指導のあり方を見直し、個に応じた指導を強化する。 ・生活指導に対する肯定的な生徒の回答を 70%以上にする。 （R5:79％　R4:76.3％　R3:63％）	・問題行動の減少を目指し、生活指導部と各学年が連携し、組織的な指導を実践した。 ・過去3年間の肯定的な回答は 83％（昨年 79％）であり、生活指導への理解が深まっている結果と考える。問題行動が14件あったが、生徒が行動を振り返ることに繋がった。学校説明会でも周知し、納得させる指導を継続していく。
⑤特別活動・部活動	・学校行事、部活動・委員会活動等に積極的に参加させ、有意義な学校生活を送らせる。 ・「文化祭に積極的に参加し、その活動に満足している。」の肯定的な生徒の回答を 70％以上にする。 ・体育祭に積極的に参加し、その活動に満足している。」の肯定的な生徒の回答を 70％以上にする。	・主な学校行事満足度は、体育祭87％（83.2％）、文化祭88％（昨年 82%）となり、生徒の主体的な取組、達成感など学校行事が充実した。 ・部活動参加率は、全学年平均で 61％（昨年 50％）。生徒が積極的に部活動に参加し、部活動が活性化してきた。

⑥ 広 報 活 動	広報活動を充実させる。 学力による選抜の倍率を向上させる。 【学力による選抜の倍率1．3倍以上】 【説明会参加者延べ1500名以上】	・教育活動の記事・動画等を作成し、ホームページを充実させる。学校案内パンフレットをリニューアルした。 ・学校説明会を改善し、部活動体験、中学校訪問、中学校への出張授業、塾訪問等により本校のPR事業を充実させた。 【学力による選抜の倍率1．14倍】 【説明会参加者延べ1200名】

2　次年度以降の課題と対応策

ア　組織的な学校運営の充実

・学校経営計画実現のために、各学年、分掌および教科の連携をさらに強化し、生徒の自己実現を図る教育活動を推進する。

・企画調整会議を機能させ、分掌と学年、教科との協力体制を強化し、学校の課題を全体で共有する。

・千歳丘高校グランドデザインを踏まえた新教育課程の具体的なカリキュラム及びルーブリック評価を実践する。

・総合的な探究の時間を軸に、教科横断的学習を学校全体で確立する。

イ　学習指導の充実

・教科主任を中心とした組織的な教科指導体制を確立し、充実した学習指導の実現に努める。

・指導と評価の一体化を図り、観点別評価により、次への意欲を喚起できる指導を確立する。

・生徒による授業評価を分析・研究し、授業改善に生かす。

・授業力向上研修や ICT 機器活用研究等を通じて、興味・関心・意欲を引き出す授業を実践する。

・家庭学習が定着するよう、Teams を活用した課題配信を行うなど具体的な提示をする。

・多様な生徒に対応するため、校内寺子屋及び講習等で、基礎講座や発展講座などニーズに応じて開講し、生徒の学習意欲を喚起し、学力向上を目指す。

ウ　進路指導の充実

・プロジェクトチームを立ち上げ、キャリア教育、「総合的な探究の時間」の指導計画を再構築し、多面的な学びを充実させ、自ら未来を切り拓く力を育成できるようにする。

・大学等進学希望者に対して、推薦入試対策として小論文・面接指導を全校体制で継続実施する。

・朝、放課後の自主学習環境を整え、長期休業中の進学講座を計画的に実施し、希望進路実現 100%を目指す。

エ　生活指導の充実

・規範意識の向上を目指し、具体的に次の項目を掲げ、指導する。

1 公共の場・交通機関でのルール・マナーを守ることができる生徒。特に自転車通学時のマナー向上を目指す。

2 時と場に応じた、身なりや所作がきちんとできる生徒を育成する。

3 相手の立場を踏まえ場面に応じた適切な言葉遣い、適切なコミュニケーションができるようにする。

4 集合時間の遵守やチャイムで授業開始できる準備等時間を意識した行動させる。

5 授業規律を守り、授業に集中し、他の生徒に迷惑となる行為をしないようにさせる。

・人権尊重の教育を推進し、いじめや体罰が起こらない学校環境を構築する。

・SC 情報交換会での情報共有などを通して、様々な課題を抱える生徒にきめ細かい相談や支援を行う。

・カウンセリングマインドを生かした生徒指導を充実させる。

・家庭との連携を強化し、遅刻常習生徒の指導を進め、改善に導く。

・安全教育推進校の経験を生かし、登下校や自転車通学のマナー、乗車時のヘルメット着用等生命（いのち）の安全教育等の指導を強化する。

オ　特別活動の充実

・生徒会活動を活性化し、文化祭・体育祭等の学校行事を通じて生徒に成就感・達成感をもたせる。

・生徒会活動、委員会活動、部活動の参加を奨励し、生徒の主体的な行動を引き出し、特別活動を活性化させる。

・地域との連携を強化し、防災活動、地域行事への参加等地域貢献活動を発展させる。地域防災については、船橋会（自治会）との覚書を取り交わす予定。学校周辺の整備は、地域の小径の会と連携して活動する。